「お盆」命の源を辿る行事

今年も無事に「お盆」の季節を迎えました。真成寺の本堂には、八百三十本を超える卒塔婆（そとば＝お塔婆）が、所狭しと立ち並んでいます。そもそも「お盆」は、インドが発祥地。そのインドでは修行僧に対して、さまざまな供養をしたのが「お盆」の始まり。「お盆」の風習がインドから中国に渡ると、先祖供養が主体となります。日本では、推古天皇十四年（６０６）に行われたのが最初と記録されています。日本でも先祖供養の行事として定着し、今日に至っています。

さぁ、今月号は、そんな「お盆」についての基礎知識を記してまいります。

【先祖供養】

私達はなぜ、ご先祖様に感謝したり供養するのでしょうか？

私達の命や身体は両親から頂いたもの。親はまたその親から、脈々と受け継がれてきている。先祖代々永遠の命が私達の中に流れている。十代遡ると約千人。二十代で約百四万八千人の両親・ご先祖様がおられる事実。二十代でざっと百万人を超える私達１人１人の命。

１人１人のご先祖様は、多くの困難を乗り越えて道を開いて下さった。だから私達は今ここに存在する事ができます。少しでも、ご先祖様の恩に報いなければ・・・そう思うのが人情というものでしょう。

今ある自分の命に対して、感謝の心をあらわす行いが「**先祖供養（追善供養）**」という事になります。

※**成仏**＝仏様の心になること。

※**仏様**＝亡くなられた人の事ではなく真理を悟った人。

※**功徳**＝善行によりそなわる徳（（陰徳を積む）。

●**『ご先祖様への祈り』**

成仏されますように（安らぎの世界に行かれますように）。生きている人が善い行いをし、その徳をご先祖様にめぐらせる。そしてご先祖様と自分と共に成仏することを祈る。これを「**回向（えこう）**」と言います。亡くなった人も功徳を積むことができます。そして、お経を読むことで徳が積まれ、仏様との縁を深めることにもなります。

●**『お供え物』**

お線香・花水・ご飯・果物・お菓子などをお供えしましょう。また、豪華とか貧相とかは問題ではありません。お供え物を**供えさせて頂こうとする「真心」が、仏様の世界につながるのです。**

●**『お経やお題目を唱える』**

お経には仏様の教えが説かれています。お経やお題目（南無妙法蓮華経）を唱え、そこに仏様のお説法の場をあらわします。心を清らかにし、仏様の心と一体になるのです。「周囲の人達を幸せにするよう励みます」という誓いを立てたり、唱えた功徳をご先祖様たちにめぐらさせていただきます。**一文字一文字が仏様であり、お経やお題目をお唱えする事は、同時に、仏様の慈悲を頂く事になります。**

●**『卒塔婆をたてる』**

法華経の一節に「塔をたてて供養するように」と説かれています。**卒塔婆（そとば）**とは、塔をあらわす形の板です。塔には仏様の舎利（ご遺骨）が安置されており、仏様そのものと言えます。卒塔婆の上部（南無妙法蓮華経）と書いてある部分はギザギザに切り込みが入っています。これは、全てのものの構成要素である五大（地水火風空）をあらわしており、仏様のお姿であることを示しています。その下に、亡き人の戒名を記し、成仏を祈るのです。

●**『法華経の教え』**

「法華経（ほけきょう）」はお釈迦様の説かれた最高のお経です。仏様は皆を安らかな心にしたいという慈悲の心で、いつも私達を導いて下さっておられます。そして誰もが仏様の子であり、仏様に成れると明記してあります。私達は全てのモノと密接に繋がっています。独り善がりの考え方は、周囲を不幸にする遠因につながります。和を重んじ、皆と一緒に幸せになる事を目指して行動することが大切です。

●**『南無妙法蓮華経』**

「**南無**」とは、心から信じるという意味です。人の「名前」は、性格や容姿、その人の人生すべてをあらわしています。同じ様に「**妙法蓮華経**」とは、お経の名前をあらわすだけでなく、教えや功徳の全てを含んでいます。

●**『仏様の心になって行動しましょう』**

ご先祖様に喜ばれる生き方を心がけましょう。誰かの幸せに役立つようにと誠実に生きましょう。それ自体が、とても良い供養となります。親が生んでくれなければ私はいません。両親のおかげで今ここに生きています。親だけではなく色々なものにも感謝しましょう。そしてご先祖様には、**感謝の心で供養をさせて頂きましょう**。供養することで優しい心が芽生えるという功徳もあります。**先祖供養**は、お寺やお墓・自宅で、年忌法要・お盆・お彼岸の法要などで行い、そして毎日仏壇で拝みましょう。

●**『お墓』**

ご先祖様のお骨が納められています。無限の命が受け継がれていることを実感できるパワースポットでもあります。

●**『仏壇』**

真成寺の本堂と同じで、仏様の世界をあらわします。最上段中央に御本尊様。お位牌は中段・下段。ご先祖様は仏様の世界におられる（住まわれている）ことをあらわしています。ご先祖様を敬う姿は、子々孫々（子供達）へと、

その姿や心が受け継がれていきます。

●『**毎朝夕のお勤め**』

〈**朝**〉仏様の教えに生きることを誓いましょう。仏様やご先祖様に感謝し、一日無事に過ごせるよう祈りましょう。〈**夕**〉今日一日、無事に過ごせたことに感謝しましょう。

●『**盂蘭盆会（お盆）**』

ご先祖様が子孫の元に返ってくる行事。

お盆には、新暦（7月）と旧暦（8月）があります。東京や一部の地域は新暦の7月に行われるなど、地域によって時期は異なります（俗に東京盆と言われています）。真成寺は、旧暦8月に行います。十三日がお盆の入り（迎え日）。十四日が盆の中日。そして十六日が盆明け（送り日）となります。

【お盆の由来】

お盆の由来は《**盂蘭盆経（うらぼんきょう）**》という経典の、次の一節に基づきます…「お釈迦様の弟子の目連は、神通力で母親が死後の世界で餓鬼道に堕ち、飢えに苦しんでいる姿を見た。母を救うため、お釈迦様の教えに従い、修行を終えた僧侶が集まる**※安居（あんご）**の最終日に、沢山のご馳走を全ての僧侶に供養した。すると僧侶たちは飲んだり食べたり踊ったり大喜びです。その歓びが餓鬼道に堕ちている者達にも伝わり、母親の口にも飲食が入り、無事に母親を救うことが出来ました」。

※安居（あんご）とは、雨期を意味します。本来の目的は雨期には草木が生え繁り、昆虫などの数多くの小動物が活動するため、外での修行をやめて、一ヶ所に定住することにより、小動物に対する無用な殺生を防ぐ事にあります。

●『**施餓鬼会（せがきえ）**』

私達はあらゆる人のお陰で生きています。死後に餓鬼道（欲深い人の行く地獄）で苦しんでいる人に（縁のある人だけでなく、縁の無い人にも）飲食物を施し、供養させていただく法要です。

●『**彼岸会（お彼岸）**』

古代インドの言語でパーラミター（波羅密多＝はらみた＝完全で最高であるという意味）と言います。私達の住む迷いや苦しみの世界を「此岸（しがん）」、悟りの世界を「彼岸（ひがん）」。その間に煩悩という川が流れています。昼と夜がほぼ同じになる春分の日と秋分の日を中日（ちゅうにち）とし、その前後3日間の1週間。この期間には彼岸にいたるよう、六波羅蜜（ろくはらみつ＝求道者が実践する6種の徳目）という正しい行いをする。

※六波羅蜜…布施（物や教えなどを施す）・持戒（善いことをする）・忍辱（我慢する）・精進（努力する）・禅定（心を静かにする）・智慧（真理を悟る）。

●『**回向文（えこうもん）**』

お経を唱え終わったら「回向文」を唱えましょう。

『**願（ねが）わくは此（こ）の功徳を以（もっ）て、普（あまね）く一切（いっさい）に及ぼし、我等と衆生（しゅじょう）と皆共（みなとも）に仏道を成（じょう）ぜんことを**（法華経・化城喩品第7より）』…私の善い行いの功徳が全てに行きわたり、みんなが共に仏道を成ぜんことを。

日蓮聖人は仰います。私達の肉体は、それがそのまま親先祖と一体であると…「**我が頭は父母の頭、我が足は父母の足、我が十指は父母の十指、我が口は父母の口なり。譬えば種子と菓子（このみ）と身と影との如し**」。

さぁ、今月はお盆の月です。心ゆくまで親先祖へ想いを届け、自分の命の原点を辿り、命の有り難みを味わって頂く事をお勧め申し上げます。合掌

副住職　谷川寛敬

秋の旅行ご案内

と き　１０月１２日（水）・１３日（木）・１４日（金）　二泊三日

ところ　東京（池上本門寺　お会式万灯行列参拝）

身延山・七面山　その他霊跡参拝（詳細はお寺まで）

※　久しぶりの七面山登詣です。是非一人でも多くのご参加をお待ち申し上げます。